

2024年11月7日

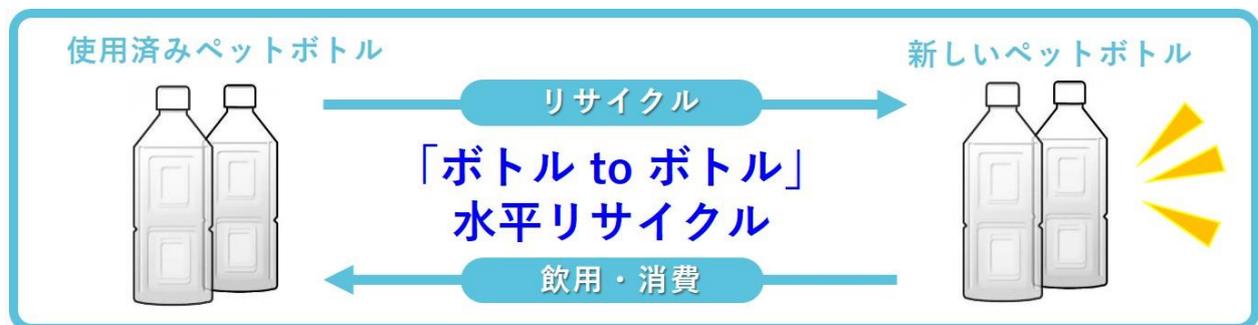
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

持続可能な循環型社会実現のための新たな取り組み 「ボトル to ボトル」 水平リサイクル推進について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 MUFG）と、サントリーグループは、持続可能な循環型社会の実現を目的として、MUFG の東京・名古屋・大阪の大型ビルより排出された使用済みペットボトルを新たなペットボトルに生まれ変わらせる「ボトル to ボトル」 水平リサイクル（以下、水平リサイクル）に関する協定書を締結しました。

MUFG 各社の大型ビルでは、これまで分別の徹底を推進してまいりましたが、今回の協定締結により、MUFG・三菱UFJ銀行・三菱UFJ信託銀行・三菱UFJモルガン・スタンレー証券のグループ各社横断で、東京・名古屋・大阪に所在する6つの大型ビルにて、水平リサイクルを本格的に始動します。

このようにグループ各社が参画し、且つ東京・名古屋・大阪の3都市を跨いで水平リサイクルを実施する取り組みは、本邦金融機関として初の試みとなります。MUFG はこのような水平リサイクルへの取り組みを通して、限りある資源を有効活用し、我が国の「循環型経済の促進」に貢献していきます。



【取り組み内容】

- ・ 回収された使用済みペットボトルは、「ボトル to ボトル」メカニカルリサイクルシステム^①により、新たに化石由来原料を使用していない「100%リサイクルペットボトル」へと生まれ変わります。
- ・ 協定書において MUFG は、収集運搬業者を通じて、使用済みペットボトルをサントリーグループ指定の処理業者に引き渡し、本処理業者が中間処理を実施したペットボトルの全量を、サントリーグループが指定するリサイクル事業者に売却されるよう、最大限努力します。

<対象施設>

排出事業所	所在地
三菱 UFJ 信託銀行本店ビル	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱 UFJ 銀行日本橋別館	東京都中央区日本橋本石町1丁目3番2号
三菱 UFJ 銀行青葉台分館	東京都目黒区青葉台4丁目8番6号
三菱 UFJ 銀行名古屋ビル	愛知県名古屋市中区錦3丁目21番24号
三菱 UFJ 銀行大阪ビル本館	大阪府大阪市中央区伏見町3丁目5番6号
三菱 UFJ 銀行大阪ビル別館	大阪府大阪市中央区伏見町3丁目4番9号

【取り組みの意義】

「ボトル to ボトル」水平リサイクルは、使用済みのペットボトルをペットボトル原料として使用するため、新たな化石由来原料を使わずに資源を循環させることができます。また新たに化石由来原料を使用してペットボトルを製造する場合と比較すると、約60%^[2]のCO2排出量を削減することができ、資源の有効活用と環境負荷の低減につながります。



【MUFG の資源循環への取り組み】

MUFG では、MUFG 中期経営計画 2024-2026 において、「社会課題の解決」に向けた優先的に取り組む10の課題の一つとして「循環型経済の促進」を掲げており、資源循環への国際的な意識の高まり、ごみ問題の深刻化、資源の保全といった観点から、持続可能な形で資源を利用する循環型経済（サーキュラーエコノミー）への移行に向けて、さまざまな取り組み^[3]を実施しています。

MUFG 自身の水平リサイクルの取り組みを通じて、今後は金融機関として水平リサイクルの社会的価値を発信しつつ、お客さまの取り組みへのサポートも含め、我が国全体への水平リサイクル普及に貢献してまいります。

- [1] マテリアルリサイクル（使用済みのペットボトルを粉砕・洗浄などの処理を行い、再びペットボトルの原料とすること）で得られた再生樹脂をさらに高温・減圧下で一定時間の処理を行い、再生材中の不純物を除去し、飲料容器に適した品質の PET 樹脂にする方法
- [2] 使用済みペットボトルからプリフォーム製造までの工程において新たに化石由来原料を使用する場合との比較
- [3] MUFG における環境負荷低減に向けた資源循環への取り組みは、MUFG Climate Report 2024（気候変動レポート）をご参照ください。https://www.mufg.jp/dam/csr/report/progress/climate2024_ja.pdf

以 上